

1 貫井図書館での取組について

【ハード面】

- ・現状は図書館と美術館が 2 つの施設に分かれた複合の状態なので、入り口を共通にした方がよい
- ・現状のように図書館と美術館を階層で分けるのではなく、空間配置の見直し等の発想も必要では
- ・美術館の入場者数を時間ごとに制限し、図書館と美術館の間に関連資料を置くスペースを設け、読書しながら待ち時間を過ごしてもらうなども融合ではないか
- ・ベビーカー置き場や授乳室は児童コーナーの近くに設置し、子どもの声が漏れないよう児童ドアで仕切るなど、大人とのすみ分けは必要
- ・美術館にある創作室は、3Dプリンターなども置き、創作活動を支援するメイカースペースにすることも可能では
- ・アイデアの実現を探るための資料は図書館にあるので、その実現の場として、予約なしでも使えるようなメイカースペースがあるとよい
- ・図書館の資料を美術館にも自由に持ち出せる環境があれば、資料を読みながら鑑賞を行うことができ、美術館側に返却棚があれば、返却忘れも防げるのでよい

- ・ 1階の入り口近くのスペースは多少声を出してもよい空間で、子どもも一緒に楽しめる芸術作品や絵本を置くなどし、2階、3階に行くにつれ静かな環境を整備し、階層によって静と動を分けるという発想もある
- ・美術館は静かに、ではなく、静と動のすみ分けをきちんとし、親子連れも心置きなく楽しめる空間になるとよい
- ・美術館と図書館の専門職の事務スペースを一体化すれば、企画のアイデアを出し合うなど、意見交換もしやすいのでは
- ・視覚障がい者の方だけでなく、知的障がい者など、様々な障がいを持つ方が日常的に利用できる施設になるとよい
- ・視覚障がいの方が、子どもが話している声が聞こえたり自然とほかの人を感じられるような、くつろぎのスペースがあるとよい
- ・障がいの有無や年齢に関係なく、誰もが芸術に触れられるような環境をどう作るのか、施設全体のサービスとして考えていくことは大切
- ・図書も美術も文化や作品として捉え、例えば「読む」「見る」「作る」「触れ合う」等のキーワードにより、それを受けてどうアクションするかでゾーニングするのも面白いのでは。その場合、マナーモードのアイコンのように誰にでも分かりやすいサインを設けて部屋を分けるとよい

第6回検討委員会での意見

1 貫井図書館での取組について

【ソフト面】

- ・美術館内にも関連図書を展示し、美術館のカウンターでも本の貸出しを可能にすると、相互乗り入れを目指せる
- ・美術館と図書館のそれぞれで資料が利用し合える環境ができるとよい
- ・ギャラリートークを美術館の学芸員ではなく図書館のスタッフが行うなど、それぞれの資料が交差する試みがあるとよい
- ・貫井図書館の利用者でも美術館の存在を知らない人は多いので、美術館から一步出たところに美術関連資料を置くことでアピールした方がよい
- ・図書館の図録コレクションをアピールするために、展覧会に関する図書資料は美術館の入り口に置くとよい
- ・美術館の入場者数を時間ごとに制限し、図書館と美術館の間に関連資料を置くスペースを設け、読書しながら待ち時間を過ごしてもらうなども融合ではないか（再掲）
- ・誰もが目につくスペースで、もう少し大々的に今行われている展覧会の関連展示をするとよい
- ・ウェブ上でも融合し、HPのトップページは1つにして、そこから図書館と美術館それぞれに入っていければよい

- ・図書館の資料を美術館にも自由に持ち出せる環境があれば、資料を読みながら鑑賞を行うことができ、美術館側に返却棚があれば、返却忘れも防げるのでよい（再掲）
- ・資料検索の際、図書館と美術館の資料やコレクション等で関連するものは紐づけし、一緒にヒットすれば活用しやすくなる
- ・講演会、お話し会等のイベントをほかの館でも中継できれば、区民全体が平等に体験でき、図書館同士の連携にもなる
- ・イベントを家庭から視聴できるよう、YouTubeライブのような形で配信する方法もある
- ・区内の図書館で行われたイベントのアーカイブを構築し、動画のコンテンツをいつでも視聴可能な環境にすることも考えられる
- ・「芳賀町総合情報館」では、図書カウンターに学芸員が立ったり、博物館の展示作業を図書館司書が手伝うなど相互乗り入れを行っており、そのような視点も参考になる
- ・施設名称を図書館と美術館で分けずに1つにし、新しい施設として再整備したことを利用者へ訴えかけるのもよい
- ・「石狩市民図書館」では絵画を貸し出しており、そのような発想の転換があるとよい

第6回検討委員会での意見

1 貫井図書館での取組について

【ソフト面】

- ・美術展示室の途中にスクリーンを設置し、作品の背景などの映像とともに、図書館の関連資料の紹介もできると面白いのでは
- ・美術館で自作のコミックのコンテストを開催し、受賞作品は図書館に飾られたり、図書館内で読めるようにするなどできるとよい
- ・何かを作りたいと思ってもらえるような場であり、作ったものが展示され、それがアーカイブによって蓄積され、それを見た人が自分も作ってみたいと思うような好循環が生まれる空間になるとよい。また、空間上だけでなくウェブ上でも提供できるとよい
- ・美術館は静かに、ではなく、静と動のすみ分けをきちんとし、親子連れも心置きなく楽しめる空間になるとよい（再掲）
- ・視覚障がい者の方だけでなく、知的障がい者など、様々な障がいを持つ方が日常的に利用できる施設になるとよい（再掲）
- ・美術作品も、視覚障がい等があっても楽しめる展示の工夫ができるとよい

- ・障がいの有無や年齢に関係なく、誰もが芸術に触れられるような環境をどう作るのか、施設全体のサービスとして考えていくことは大切（再掲）
- ・創作室内で複数のグループが同時に活動できるようにすると、ほかのグループの活動も見られて交流が生まれるのでは

第6回検討委員会での意見

2 練馬図書館での取組について

【ソフト面】

- ・図書館で借りた本を生涯学習センターに自由に持ち出せ、活用しながら学びを深めていけるの仕組みがあればよい
- ・ブックディテクションシステムを共通の入り口に移動することで、本を生涯学習センターに自由に持出し可能にし、調理実習室で参考にしながら料理等ができるとうよい
- ・生涯学習センターを利用している方向けにそれぞれの活動テーマに合致したブックリスト等を提供し、図書館を使うと更にその活動が充実しますとアピールするのよい
- ・図書館が作ったパスファインダーのような資料を廊下や通路など、目につく場所に置くというのも1つの方法
- ・生涯学習センターでのグループ活動が見えるようにして、図書館に来た人たちが活動に興味を持てるとよい
- ・美術工芸室で貫井図書館所蔵の美術コレクションをPRするコーナーを作るなど、区内各図書館の特性、強みをそれぞれの学習活動に生かしてもらえようようなアピールができるとうよい
- ・区内各図書館の講演やイベントをエントランスホールで映像として流すなどができるとうよい

- ・生涯学習センターで行われた過去の催し、利用者の活動内容等の記録を図書館で保管し、来館した方がそれらを知ることができれば、生涯学習センターに興味を持つきっかけになるのでは